

余斤

専門

【朝夕刊月ぎめ定価3925円(本体価格3738円+消費税187円)】1部売り朝刊130円・夕刊50円

(第3種郵便物認可)

# 父残し 母子移住

〈1面続き〉

海外留学を経験し、英語で苦労したことがある親たちの世代に広がる早期英語教育熱。海外留学も早期化が進み、父を残して母子が海外へ出るケースも登場。夏休みなどを利用した短期留学も人気だ。来年度から小学校で英語が必修となるが、「あてにできない」と、はやる親たちは走り始めている。

「頑張ったよ！」兵庫県明石市の団体職員、藤井俊樹さん(42)は、iPhone(アイフォーン)のテレビ電話画面の向こうで、英文法的答案用紙を誇らしげに見せる娘に目を細めた。  
妻・大子さん(38)が長女

## 高まる英語教育熱



搭乗口で、父親の藤井俊樹さん(左)との別れを惜しむ大子さん(中央)や子どもたち(11月27日、関西空港で)＝里見研撮影

## 日本から仕送り・短期留学も人気

・棕子さん(10)と長男・丈達君(5)を連れて今年7月、シンガポールに渡った。棕子さんは、世界各国から集まる子どもたちと塾で英語を学び、1月から地元小学校に入る。丈達君は幼稚園に通っている。

決断したのは大子さん。高校卒業後に米国の大学へ留学し、授業についていくのが大変だった経験がある。教科書通りに進める分、かりやすい教授の授業ばかりを取った。「子どもには、そんな苦労をさせたくない。早い時期に英語に触れさせたかった」という。シンガポールは治安が良

キロギ・アップ 韓国語でキロギは雁、アップは父。英語習得のために海外移住した妻子のために、国に残って仕送りし、たまに渡り鳥のように会いに行く父親をいう。いつでも家族の元に駆けつけられる経済力のある父親はトクスリ(ワシ)・アップ、経済力がなく空港で家族を見送るのみのペンギン・アップという言葉もあり、過熱気味な韓国の教育を表している。

留学した人たちは30歳〜40歳代前半となり、我が子の英語教育に熱心だという。

海外の長期滞在をサポートする「アエルワールド」(東京)によると、5年前に年数組だった母子の長期留学は、近年30組近くある。担当者は「留学を経験した親は、日本の教育では英語力を伸ばすのは難しいと考えるのではないかとみる。

俊樹さんは、英語熱の高い韓国で話題になる「キロギ・アップ」の日本版だ。

米国際教育研究所(本部・ニューヨーク)によると、米国の外国人留學生のうち日本人は前年度比15.1%減の約2万4800人。5年連続で減少した。ピークは1997年度の約4万7000人。その前後に